令和７年度学校経営計画

校長　黒後　茂
努力と感謝

1　目指す学校

スクールミッション

「個性伸長・創造自立・共学教育」を教育目標とし、個に応じた教育活動やキャリア教育を通じて、自己を深く見つめ、能力や適性を発見し、社会に貢献する能力や態度、人権尊重の精神、自主自立の精神を培い、自信をもって社会で自立するための力を育成します。

スクールポリシー

グラデュエーション・ポリシー

①　将来に向けて学び続ける力の育成
急速に変化する社会に対応できる知識や技能を習得・深化させていく教育
②　基本的生活習慣と規範意識の醸成
社会の一員としてあるべき姿を理解し、他者と協働していくことができる教育
③　自他を尊重する精神の育成
他者を理解し、自己の在り方・生き方を見つめ、人権尊重の精神を涵養できる教育

カリキュラム・ポリシー

①　総合学科の特性を生かし、必履修科目と３系列（福祉・教養、情報・ビジネス、アート・デザイン）の選択科目を通して自己を見つめ、学ぶ中で自尊感情や帰属意識を高める。
②　単位制により７４単位以上を取得する。英語、数学、国語をはじめ多くの科目で少人数教育を実現し、さらにチャレンジスクールの役割を踏まえ、再履修科目や多くの特色ある学校設定科目を設置し、個々の興味・関心・進路希望に応じたカリキュラム編成を行う。また、障害等種々の困難を主体的に改善・克服するため、自立活動を教育課程に位置付ける。

アドミッション・ポリシー

①　基礎・基本に加え社会生活に役立つ知識・技能・態度を身に付けようとする生徒
②　３系列（福祉・教養、情報・ビジネス、アート・デザイン）の学習を通して、社会で自立できる技術や資格を身に付けるとともに、社会のルールやマナーを守り、他人に配慮できる生徒
③　体験学習や学校行事・部活動などを通して、心のふれあいを大切にし、豊かな人間関係を育み、地域や社会に積極的に関わろうとする生徒

2　中期的目標とその達成に向けた方策の検討と段階的実践

○　開校当初と同じコンセプトで、高等学校を中途退学した生徒や小・中学校時代に不登校を経験した生徒を含め、これまでの教育の中では自己の能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒など、多様な生徒の入学を想定する。
○　人口減少・少子高齢化・デジタル化・グローバル化等の進展とともに予測困難な時代・社会を生き抜いていく生徒を、一人でも多く育成し次の世界へと送り出すために、「生徒がもつ可能性は無限大。今、明日、いつか、その芽を出す」ことを信じて、その実現に向けた教育活動を創意工夫しながら生徒の“今から、ここから”を応援していく。
○　不易流行を的確に捉え、デジタルとリアルを融合した、桐ヶ丘高校ならではの“新たな教育のスタイル”、生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな教育“最適な学び”の検討と実現を目指す。

（１）生徒の個性や強みを伸ばし、学ぶ意欲を高める
①　何のために学ぶのか、学んだことがどう役立つのか」を実感できる授業等
②　個別の学びと協働的な学びの併用
③　習熟度別授業や少人数授業の充実活用
④　ＩＣＴの活用（双方向型・オンデマンド型授業、生成ＡＩ活用、デジタル教科書導入等）
⑤　外部人材を活かした多様な体験学習（福祉・環境・グローバル等）
⑥　適切な学習評価（観点別評価等）の在り方の検討・実践

（２）社会の一員として、より良く生きていくための素養を育む
①　各系列に即した授業における将来に生かせる知識や技能の習得
②　計画的なキャリア教育とインクルーシブ教育を踏まえた多様な進路実現（就労移行支援を含む）
③　他者への共感や思いやり、人権尊重、自己肯定感、規範・帰属意識を育む活動（ボランティア含む）
④　生命を大切にする判断力と行動力を育む健康講話（薬物乱用防止）、交通安全学習、防災学習
⑤　英語力の育成
⑥　通級指導並びに日本語指導の充実
⑦　目的意識のない進路変更や離職防止
⑧　体罰・不適切な指導やいじめのない教育環境の維持・促進

（３）多様な学びの場と居場所の提供
①　教育相談部と年次・他分掌との連携を通して組織的な教育相談
②　校内別室指導“ぴっと”や“桐ヶ丘カフェ”の充実

（４）桐ヶ丘高校の今、そしてこれから
①　情報発信機能の強化及び目指す学校に相応した組織的な生徒募集・広報活動
②　学校運営に適った予算の編成・執行及び各種給付金の円滑な運営
③　安全かつ円滑な新校舎建築の進行管理及び教育活動の維持及び学びの保障
④　令和８年度新校舎完成を機にこれまでの取組成果検証及び「新生桐ヶ丘高校」の構築

（５）ライフ・ワーク・バランスを踏まえた円滑な学校運営の実現
①　心身の健康に配慮した働きやすい環境の維持及びやりがいをもって従事できる組織的な校務運営
②　年次有給休暇（目標２０日取得）や育児休業を取りやすい職場環境

3　今年度の取組目標とその達成に向けた方策

人口減少・少子高齢化・デジタル化・グローバル化等の進展とともに予測困難な時代・社会を生き抜いていく生徒を、一人でも多く育成し次の世界へと送り出すために「生徒がもつ可能性は無限大。今、明日、その芽を出す」ことを信じて、生徒の“今から、ここから”を応援し、「安全・安心で落ち着く場所」「元気になれる場所」「未来に対して前向きになれる場所」そんな学校づくりに努めながら、桐ヶ丘高校ならではの“新たな教育のスタイル”と、生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな教育“最適な学び”の検討と実現を目指す。

様々な困難を抱える生徒を取り残さないきめ細かな取組

１　アセスメント・シートやパーソナル・ファイル等を作成・活用し、丁寧に個別指導にあたることで生徒の円滑な学校適応を図る。
２　学校とつながる居場所（校内別室指導“ぴっと”や“桐ヶ丘カフェ”）の運営や通級指導及び日本語指導を通じて、関係スタッフと協働して学びの保障や生徒の身体面・心理面・社会面での支援の充実を図る。

学習指導

３　生徒の学力の把握に努め、授業の受け方８箇条を踏まえ、以下の取組を中心に「分かった！できた！」が飛び交う授業実践を通して、生徒の学習不安の払拭、学ぶ意欲の喚起、授業出席率と履修率の向上とともに学力の定着・伸長を図る。
①　体験的学習や言語活動等の協働的な学びに係る研修等を通して主体的・対話的で深い学びを推進
②　習熟度別授業・少人数授業を生かした指導内容・指導方法の工夫・改善
③　ＩＣＴ機器はじめ一人１台端末の計画的な活用と、適宜オンライン学習等（双方向型・オンデマンド型授業、生成ＡＩ活用、デジタル教科書導入等の活用の検討）の推進
４　観点別評価の実施・検証やカリキュラムマネジメント等の研究を通して、全教員で計画的に教科横断的授業実践・改善に向けた研修を推進する。
５　成年年齢の引下げを踏まえ、社会の担い手の一人になれるよう、主権者教育の充実を図る。

進路指導

６　自己の在り方・生き方を見つめさせ、早期から有効な情報を提供し、全教育活動を通して行う計画的なキャリア教育とインクルーシブ教育との融合を図り、卒業後の進路（就労移行支援を含む）を実現させる。
７　各種検定試験等の資格取得に向けた指導の充実と、技能審査の成果に関する単位認定等を推進する。

生活指導

８　桐ヶ丘マナー10箇条を踏まえ、社会人として身に付けるべき規範意識を醸成し、生徒一人一人に安心・安全な学校づくりの主役であることを自覚させ担わせる。
９　人権教育を通じて、多様化する時代において偏見や差別をなくし、他者への共感や思いやりの心を育む。
10　自転車乗車時のヘルメット着用や地震等の自然災害への備えを通じて、自ら生命を守る素養を育む。
11　意図的・計画的な避難訓練等を通じて、冷静に自助・共助できる素養と行動力を育む。

特別活動・部活動

12　生徒の個性の把握に努め、以下の教育活動を通して、生徒の自己肯定感、生命や人権を尊重する心、思いやりの心をもって豊かな人間関係をつくろうとする素養を育成する。
①　ホームルーム活動　　②　生徒会活動　　③　学校行事
④　部活動・委員会活動　　⑤　地域連携・地域ニーズを活用した活動
13　東京２０２０オリンピック・パラリンピック教育レガシーを踏まえ、「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」を育成する。

健康づくり

14　生徒が自ら心身の健康づくりに取り組む態度と、そのための適切な行動選択及び判断力を育成する。
15　生活習慣病・がん・感染症等の予防に係る教育を、関係機関や家庭と連携し推進する。
16　発達段階や個性に応じて、スポーツに親しむ態度やスポーツを通して社会性を育成するとともに、体力の向上を図る。
17　学校給食等による食育を通じて、生涯にわたって健康的な食習慣を育んでいく素養を育む。

学校経営・組織体制

18　全教職員で業務の効率化を検討・実践し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現と、教職員の在校時間を縮減、年次有給休暇の取得（目標２０日取得）に資する。
19　全教職員で協働し体罰はじめハラスメント等の服務に係る事故を未然に防ぐ。
20　全教職員で情報共有と共通理解に努め、特別支援教育の理解促進と重層的な教育相談を推進する。また、生徒の実態に応じた指導・支援の研究・実践と合理的配慮に努める。
21　予算の適正かつ効果的な編成・執行や各種支援金の手続き等を通して、経営参画型経営企画室機能の充実と、教員との連絡調整を密にして効果的な学校経営に資する。
22　新校舎建築の進行管理と、同環境下での教育活動を最大限に工夫し維持する。
23　令和８年度夏の新校舎完成を機に、一層ニーズに応えられる「新生桐ヶ丘高校」を構築する。
24　「目指す学校」に対する教職員の共通理解を図り、中学校訪問、学校説明会・見学会、ホームページ管理を通して組織的に募集・広報活動を推進し、本校の特徴を理解した生徒を入学させる。

4　数値目標

履修率	８５％	検定合格者数	延べ２００名	卒業生の進路決定率	８０％
部活動加入率	６０％	学校行事満足度	８０％	学校説明会等来校者数	延べ７００名
学校ＨＰ更新回数	２５０回	学校生活満足度	８０％		